

2020年度(令和2年度)事業報告書

(自2020年4月1日 至 2021年3月31日)

一般財団法人 山縣記念財団

I 2020年度決算について (以下千円未満は切捨)

(正味財産増減計算書)

- a) 2020年度の経常収益は、基本財産運用益が1,928千円(前年度6,259千円)と前年度に比し4,331千円減少し、受取会費などと合わせ合計10,929千円(前年度15,442千円)と4,513千円の減少となった。
 - b) 一方、経常費用は41,695千円(前年度37,059千円)と前年度比4,636千円増加し、
 - c) 評価損益等調整前当期経常増減額は△30,765千円(前年度△21,616千円)となった。
 - d) また、基本財産等の評価損益等が43,833千円(前年度△37,906千円)発生したため、
 - e) 当期末正味財産は、445,472千円(前年度432,404千円)と前年度比13,068千円の増加となった。
- (公益目的支出計画)
- f) 公益目的支出計画は認可を受けた年間支出金額29,902千円に対し実績は30,438千円と536千円計画を上回り、
 - g) 2012年度計画開始以降の実績累計額は271,491千円となり、目標累計額269,116千円(=29,902千円×9年)を上回った。

II 実施事項

1. 継続事業1: 普及・啓蒙事業

(1) 学術研究誌『海事交通研究』(年報)第69集発行

合計6件の論文等(内、査読論文4件、論文以外2件)及び、財団設立80周年関連記事を掲載し、2020年12月22日発行、海運・物流関係者など約400件に配布した。

(2) 財団設立80周年記念出版『日本の海のレジェンドたち』発行

財団設立80周年(2020年6月3日)を記念し、2021年3月28日、海文堂出版(株)から1,800部発行。うち、800部を定価2,750円(税込み)で市販し、1,000部を当財団が1,661,000円(税込み)で購入し、執筆者(21名)、関係者及び海事関係者宛無償で配布した。

なお、本記念誌を出版社経由発行することについては、2020年10月1日、内閣府公益認定等委員会より本件継続事業1に含めて実行可の旨承認を得ている。当財団は、執筆者20名(除・郷古)に原稿料を支払う一方、本書の販売には一切関与しておらず、印税など収益も発生していない。

2. 継続事業2: 表彰事業(2020年山縣勝見賞)

受賞著作・論文・受賞者は以下の通り。贈呈式は、新型コロナ・ウィルス感染防止の観点から中止し、賞金・表彰状及び副賞を受賞者宛郵送した。

- ・著作賞: 小林 登著『定期傭船契約論』
及び 水本 邦彦著『海辺を行き交うお触れ書きー浦触の語る徳川情報網ー』
- ・論文賞: 該当者なし
- ・功労賞: 池田 宗雄氏(元東海大学海洋学部教授)
- ・特別賞: 菊池 金雄氏(徴用船の調査研究に対して)

3. 継続事業3: 助成事業 (海事関係団体などへ支援と協力の強化)

(1)2020 年度助成については、11 件(9 団体/個人)に対し 194 万円助成することが承認されたが、新型コロナ・ウィルス感染症の影響から、最終的に支払いを行ったのは、以下の8件(6 団体/個人)に対し助成(合計1,469,618 円)であった。

- ①日本海洋少年団連盟：「褒状山縣賞」授与事業 (20 万円)
- ②日本海洋少年団連盟：「我ら海の子展」事業 (10万円)
- ③日本海洋少年団連盟：カヌー等海上資機材整備事業 (30 万円)
- ④東京海洋大学附属図書館：第12 回企画展示「海が育んだ江戸」(第4 回) (35 万円)
- ⑤野村憲一(国立病院機構さいがた医療センター勤務(医師・血液内科))：日本海をはさんだ、ポーランド人、ラトビア人と日本人との関係史の調査・研究 (20 万円)
- ⑥松田琢磨(申請時：日本海事センター研究員、4 月以降、拓殖大学商学部教授)：コンテナ市況予測に関するモデル構築 (12 万円)
- ⑦千葉 元(大島商船高専教授)：船舶関連の海洋汚染防止の法体制と現場の実情に関する調査 (12 万円助成後、未実行分 70,382 円返金、差引 49,618 円助成実行)
- ⑧井上 敏孝(常磐会学園大学 専任講師)：戦前期の日本外地における築港政策とテクノクラートに関する一考察—朝鮮における築港事業を中心に (15 万円)
(この他、東京海洋大学 海事普及会：海事普及のための学校等巡回活動事業 (20 万円)、NPO 法人故郷の海を愛する会：海から始まる物語 IN 2020 (10 万円)、福山秀夫・男澤智治：中欧班列と日本発貨物をいかにつなぐかに関する研究 (10 万円)についても助成が認められたが、新型コロナ・ウィルス感染症の影響もあり、2020 年度中の活動が中止となり、各申請者から辞退の申し出があった。)

(2)日本海洋少年団連盟主催の第48 回「我ら海の子展」の最終審査会(2020 年7 月17 日)には郷古理事長が出席し、「山縣記念財団理事長賞」を選定したが、授賞式は、新型コロナ・ウィルス感染防止の観点から中止された。

また、2020 年度「褒状山縣賞」の授賞式は、当初 2021 年3 月に予定されたが、新型コロナウィルス感染防止の観点から、延期された。

III 登記事項

- (1) 2020.6.26 苦瀬 博仁、山縣 一弘、石井 憲、伊藤 義和、大貫 伸、逸見 真、中出 哲：評議員重任
2020.6.30 登記
- (2) 2020.9.16 2020.9.16 郷古達也：代表理事住所変更 2020.10.9 登記

IV 会議などの実施状況

以下に記載した合計 21 件の会議を行った。

新型コロナウイルス感染防止のため、全て e メールまたは web にて開催した。

1. 理事会・評議員会

No	開催日	場所/会議名	内容
(1)	2020. 6. 19	e メールにて 定時理事会	① 2019 年度事業報告・決算・公益目的支出計画実施報告を承認。 ② 『『海事交通研究』(年報)への投稿募集及び編集に関する規程』

			<p>の改定の件を承認。</p> <p>③ 三事業委員会委員を改選。</p> <p>④ 2020年山縣勝見賞答申案を承認。</p> <p>⑤ 80周年記念出版掲載レジェンド一部変更を承認。</p> <p>⑥ 定時評議員会を本理事会終了後「決議の省略」及び「報告の省略」の方式（メール）にて実施すること及び議題について承認。</p> <p>⑦ 基本財産等の運用状況について報告。</p>
(2)	2020. 6. 26	eメールにて 定時評議員会	<p>① 2019年度事業報告・決算・公益目的支出計画実施報告を承認。</p> <p>② 苦瀬 博仁、山縣 一弘、石井 憲、伊藤 義和、大貫 伸、逸見 真、中出 哲を評議員に再任（以上同日付）。</p> <p>③ 『『海事交通研究』（年報）への投稿募集及び編集に関する規程』の改定の件を報告。</p> <p>④ 三事業委員会委員改選の件を報告。</p> <p>⑤ 2020年山縣勝見賞答申の件を報告。</p> <p>⑥ 80周年記念出版掲載レジェンド一部変更の件を報告。</p> <p>⑦ 基本財産等の運用状況について報告。</p>
(3)	2020. 7. 13	eメールにて 臨時理事会	<p>① 会議への出席謝金の支払対象に「決議の省略」及び「報告の省略」の方式によりメールで実施するものを含めることを承認。</p> <p>② 臨時評議員会を本理事会終了後「報告の省略」の方式（メール）にて実施すること及び議題について承認。</p>
(4)	2020. 7. 20	eメールにて 臨時評議員会	<p>会議への出席謝金の支払対象に「決議の省略」及び「報告の省略」の方式によりメールで実施するものを含めることを報告。</p>
(5)	2020. 10. 29	webにて 臨時理事会	<p>① 80周年記念出版『日本の海のレジェンドたち』の出版部数、当財団購入価格、出版契約書の内容、印税を払わないこと、増刷・改訂版・増補版等について承認。</p> <p>② a. 80周年記念出版、及びb. 助成による出版物を出版社経由市販することについて、内閣府から、現行公益目的支出計画上の継続事業1（上記a）、継続事業3（上記b）の範囲に含まれる事業として実施可との承認を得たことを報告。今後の出版助成事業の実施予定について報告。</p>
(6)	2020. 11. 30	webにて 臨時理事会	<p>① 基本財産取崩しに係わる件につき承認。</p> <p>② 80周年記念出版に掲載するレジェンドを一部変更する件につき承認。</p> <p>③ 木原知己氏の出版助成申請につき、助成することは承認するが、助成金額については、不明点を明らかにしたうえで、再度審議することとなった。</p> <p>④ 臨時評議員会の日時（12月14日）、方法（web）、議題を承認。</p> <p>⑤ 事業活動及び収支状況の中間報告並びに公益目的支出計画の進捗状況について報告。</p> <p>⑥ 基本財産等の運用状況について報告。</p> <p>⑦ 代表理事の職務執行状況報告。</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 年報第 69 集掲載論文について報告。 ⑨ 年報第 70 集統一テーマを定めず、自由テーマをメインとして、参考までにいくつかのカテゴリーを表記するにとどめることを報告。
(7)	2020. 12. 14	e メールにて 臨時理事会	改めて、木原知己氏の出版助成申請につき審議し、助成金額について承認。
(8)	2020. 12. 14	web にて 臨時評議員会	<ul style="list-style-type: none"> ① 基本財産取崩しに係わる件につき承認。 ② 事業活動及び収支状況の中間報告並びに公益目的支出計画の進捗状況について報告。 ③ 基本財産等の運用状況について報告。 ④ 代表理事の職務執行状況報告。 ⑤ 年報第 69 集掲載論文について報告。 ⑥ 年報第 70 集統一テーマを定めず、自由テーマをメインとして、参考までにいくつかのテーマを表記するにとどめることを報告。 ⑦ 80 周年記念出版を出版社経由市販することについて、内閣府の初認が得られたこと、掲載するレジェンドを一部変更する件につき報告。 ⑧ 木原知己氏の出版助成申請につき、助成金額について理事会で承認されたことを報告。さらに今後の出版助成の在り方について意見交換。
(9)	2021. 3. 17	web にて 定時理事会	<ul style="list-style-type: none"> ① 2021 年度事業計画・収支予算・公益目的支出計画を承認。 ② 助成審査委員会答申案を承認。 ③ 苦瀬博仁氏に対する出版助成を 2021 年度中に行うことを承認するとともに、2022 年度以降の出版助成の方向性について合意。 ④ 臨時評議員会の日時（3 月 29 日）、方法（web）、議題を承認。 ⑤ 基本財産等の運用状況について報告。 ⑥ 年報第 70 集、80 周年記念出版及び 2020 年度の出版助成の進捗状況について報告。
(10)	2021. 3. 29	web にて 臨時評議員会	<ul style="list-style-type: none"> ① 2021 年度事業計画・収支予算・公益目的支出計画を報告。 ② 2020 年度の資産運用状況について報告。 ③ 助成審査委員会答申案を理事会で承認されたことを報告。 ④ 苦瀬博仁氏に対する出版助成を 2021 年度中に行うことについて理事会で承認されたこと、及び 2022 年度以降の出版助成の方向性について理事会で合意されたことを報告。 ⑤ 年報第 70 集、80 周年記念出版及び 2020 年度の出版助成の進捗状況について報告。

2. 年報掲載作品編集委員会

No	開催日	場所	内容
(1)	2020. 4. 1	e メールにて	① 年報第 69 集への論文等執筆申請 11 件について審議し、1 件については当方より執筆を依頼する形とし、10 件について執筆を応

			<p>諾することが承認されたが、1件については執筆者から取下げの申し出があり、都合10件執筆されることとなった。</p> <p>② 当財団設立80周年に際し、80年前の海運状況についての文章を掲載してはどうかとの提案があった。</p>
(2)	2020. 8. 28	webにて	<p>① 提出された査読対象論文8件を査読に回すことを承認したが、1件については類似論文があるので新規性に抵触しないかどうか、その前に執筆者に確認を求めること、査読対象外1件については条件付きで「特別寄稿」として掲載することとなった。</p> <p>② 前回提案のあった80年前の海運状況についての文章を探しているとの報告。</p>
(3)	2020. 10. 14	webにて	<p>① 査読対象論文8件の査読結果を受け、2件を二重投稿と認め不掲載とし、2件を研究論文以外のカテゴリーでの条件付き掲載、のこり4件を研究論文として条件付き掲載とすることとし、それぞれ修正を依頼することとなった。</p> <p>② 査読対象外の特別寄稿1件について、図の出典を明らかにするよう依頼することを報告。</p> <p>③ 80年前の海運状況についての文章の掲載について報告。</p>
(4)	2020. 11. 25	webにて	<p>① 査読対象論文で「条件付き掲載」となった6件の修正結果を見た結果、内4件を「研究論文」として、1件を「研究ノート」として掲載可とし、1件を「不掲載」とした。</p> <p>② 80年前の海運状況についての文章を山縣勝見の博士論文『海運統制論』（1965年）から引用掲載することを提案したが、戦時の海運体制を肯定すると誤解される可能性があるとして、掲載を見合わせる事となった。</p> <p>③ 年報第70集（2021年）の統一テーマを定めず、自由テーマをメインとして、参考までにいくつかのカテゴリーを表記するにとどめることとした。</p>
(5)	2021. 3. 23	webにて	<p>年報第70集への論文等執筆申請11件について審議し、全11件について執筆を応諾することが承認された。</p>

3. 山縣勝見賞選考委員会

No	開催日	場所	内容
(1)	2020. 6. 10	eメールにて	2020年山縣勝見賞受賞候補として、著作賞2件、功労賞1件、特別賞1件を選定し、理事会に答申することとした。論文賞は該当なしとした。

4. 助成審査委員会

No	開催日	場所	内容
(1)	2021. 3. 8	webにて	7団体/個人による9事業、234万円の申請に対し、全9事業へ185万円の助成を行うことを内定し、理事会に答申することとした。

5. 80周年記念出版編集委員会

No	開催日	場所	内容
(1)	2020. 9. 3	webにて	(各評伝の精読を委任された苦瀬・木原両委員(以下「精読委員」という)のみ) 80周年記念出版『日本の海のレジェンドたち』の全体構成について審議。
(2)	2020. 9. 17	webにて	(全体会議) ① 80周年記念出版『日本の海のレジェンドたち』の全体構成について審議。 ② 現状と今後の予定について報告。
(3)	2020. 10. 6	webにて	(精読委員のみ) ① 海文堂と成山堂の見積内容の優劣につき審議し、海文堂に発注することとした。 ② 当財団から各執筆者に対して原稿料を支払うので、印税は初版時だけでなく重版時も免除するのが妥当ということで合意。 ③ 出版契約書の内容、作成方法について審議。
(4)	2021. 1. 25	webにて	(全体会議) ① 各評伝の要修正項目の確認。 ② 評伝以外の前付け・後付けの各項目および全体構成の組み立て方について審議。 ③ 発刊が3月になることを確認。

以上